

森野藤助賽郭真写「松山本草」

森野旧薬園から学ぶ生物多様性の原点と実践



奈良県大宇陀で守られる日本最古の私設薬園、史跡、森野旧薬園が所蔵する門外不出の家宝「松山本草」全10巻を初めてフルカラーで公開。
 森野家は奈良県大宇陀で約400年の間、吉野葛製造を営んできた旧家である。薬草を中国からの輸入に頼り、財政を逼迫させていた享保年間に、森野家10代目、初代藤助賽郭は、八代将軍吉宗の命を受けた幕府採薬使、植村左平次とともに大和地方を調査した功により、幕府より薬草を下賜され、これを自家の裏山に植えたのが森野旧薬園のはじまりである。

B5判 上製 432頁(フルカラー) 本体価格33,200円
 ISBN978-4-87259-462-1 C1347

お申し込みは下記注文書に必要事項をご記入の上、お近くの書店にお持ちください。
 お急ぎの際は、直送もいたします。
 電話・e-mail・FAXで直接注文書を小会にお送りください。

高橋京子 著

大阪大学総合学術博物館
 (兼)大阪大学大学院薬学研究科 准教授



返品条件付注文書	貴店印	森野藤助賽郭真写 「松山本草」 高橋京子 著 本体価格33,200円 ISBN978-4-87259-462-1 C1347	お名前 _____
	様		郵便番号 _____
	冊		ご住所 _____
			電話 _____
			ご購入は <input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 公費
			必要書類 <input type="checkbox"/> 見積書 <input type="checkbox"/> 納品書
			<input type="checkbox"/> 請求書

大阪大学出版会 ▶ Fax 06-6877-1617



大阪大学出版会
 Osaka University Press

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-7 大阪大学ウエストフロント
 Tel: 06-6877-1614 e-mail: info@osaka-up.or.jp

薬園風景



桃岳庵

森野家が家宝として260年間門外不出としてきた家宝「松山本草」を初めて全巻フルカラーで公開。八代将軍吉宗の命を受けた幕府採薬使、植村佐平字とともに大和地方を調査し、森野旧薬園を創設した、森野家初代藤助(賽郭の描く植物画は、江戸享保改革期、幕府の薬種国産化政策を背景に、当時の生薬基原種や、すでに生息していた西洋生薬など、園内の植生を描き出している。



第2巻草下 原本頁23と24



享保14年に森野藤助賽郭が写生した原色植物画「松山本草：10巻」植物の他、昆虫、鳥獣、貝が描かれている。薬草は使用部位も描かれ、開花時期、異名、上品、中品、下品などの記載もみられる。

森野家10代目、初代藤助賽郭は、江戸へでかける機会に、さまざまな専門家との交流を経て、晩年、自家の山に「桃岳庵」を建て、そこで薬草や動物の写生を日課とした。これが「松山本草」であり、植物の他、昆虫、鳥獣、貝が彩色されて702種描かれ、和綴りで「草上」「草下」「蔓草藤」「芳草・灌木」「山草・湿草・毒草」「水草・石草」「殻草」「木」「鱗蟲禽獣」「介」の名前が各巻に付けられた状態で全10巻となっている。

目次

序章 本書の視角：松山本草と森野旧薬園研究

第一章 森野藤助通貞賽郭写真『松山本草』

森野藤助賽郭と松山本草

生薬品質における基原植物同定と博物学

松山本草翻刻

第1巻	草上	(59頁:1-121種)	121種
第2巻	草下	(61頁:122-241種)	120種
第3巻	蔓草藤	(51頁:242-341種)	100種
第4巻	芳草・灌木	(19頁:342-377種)	36種
第5巻	山草・湿草・毒草	(43頁:378-459種)	82種
第6巻	水草・石草	(31頁:460-518種)	59種
第7巻	穀菜	(33頁:519-582種)	64種
第8巻	木	(61頁:583-702種)	120種
第9巻	鱗蟲禽獣	(48頁:703-787種)	85種
第10巻	介	(55頁:788-1001種)	214種

図絵解説一覧 (計1001種)

第二章 森野旧薬園から学ぶ

生物多様性の原点と実践

江戸・享保改革期の薬種国産化政策と森野家

森野薬園時代の漢薬種育成と生薬栽培の伝統

森野旧薬園における生育植物の現況

森野旧薬園の環境社会学的意義：

国内における生息域保全

終章 総括と展望

図絵解説一覧

第1巻 草上

原本頁	生薬名	和名	備考	草上		解説			
				開花時期	異名	植物名	科名	備考	参考資料
1	甘草	アマキ	機葉上品	五月開花	蜜甘<別録>國老 莢草	カンゾウ または同属植物 <i>Glycyrrhiza uralensis</i>	マメ科 Fabaceae	花や果実が描かれていないが「物産宝山記」(享保14)に幕府から7根採領の記載より推察。	原色(上) p.43
2	同			五月開花					
2	黄蓍	ヤワラグサ	外有蔓草	七月開花	戴椹 戴椹 蔓叶<別録>百本 玉孫 <別録>又タ 獨椹 蜀脂	キバナオウギ <i>Astragalus membranaceus</i>	マメ科 Fabaceae	小葉は6-12対で楕円形であるためキバナオウギと推察。	原色(上) p.48
3	朝鮮初生	ミハハ							
5	味初生	同							
6	朝鮮人參	カノニゲグサ	上品		人瀝 黄參<異書>血參 <別録>人街 <別録>土精 地精 <廣雅>海眼 <本經>鬼蓋 神草	チョウセンニンジン <i>Panax schin-seng</i>	ウコギ科 Araliaceae	別名：オタネニンジン	野生草Ⅱ p.275
4	7	本朝人參	ヒゲニンジン	中品	竹節人參				野生Ⅱ 75
8	吉葉沙參	トトキ			白參<異書>... 奶<本經>鈴...				生Ⅲ 52
9	味沙參	ツリガネサウ							生Ⅲ 52
10	同			七月開花					
11	同			七月開花					

さらに、現在の植物との比較解説を行った図絵解説一覧、森野旧薬園の生息植生調査リストをそろえ、江戸期の薬園を今に伝える森野旧薬園の姿と意義を明らかにする。生物多様性の原点と実践の扉となる一冊。

莖頂にややまばらな散形花序をつ